



土岐市	教育研究所
TEL	0572-54-1111 (内374)
FAX	0572-55-6310
メールアドレス	kyoiku@city.toki.lg.jp
所報	No. 582
発行責任者	所長 西尾 実
発行日	令和7年 7月 15日
題字	長谷川 広和 教育長



『みんなのでつくろう!』

撮影 肥田こども園

中川 夏実 先生

## 「子どもの体力」

土岐市教育研究所長 西尾 実

全国各地で、施設の老朽化で学校プールの廃止のニュースが飛び交っています。さらに輪をかけて年々気温が上がり続ける激暑で、小学生の一番の楽しみな夏休みのプール開放も数回しかできなくなっています。小学校高学年では、全員が2.5m泳げるようになってほしいと、どの小学校の先生も思っていますが、その環境が整わなくなってきました。そこで、今年度から全小学校の3年生に、水泳の専門講師による指導を実施しています。小学3年生は、け伸びや呼吸をしながら初歩的な泳ぎを身に付けるとても大切な段階です。先日、ある小学校の水泳授業を見学させていただきました。浮きを取るために水中に頭を入れる瞬間、自信の無さそうな児童は険しい表情でした。それが、講師の方から手を差し伸べられたり言葉をかけられたりして練習を繰り返すうちに、徐々に水中に浮けた実感を掴んだのでしょ、う、だんだん笑顔に変わっていく様子が印象的でした。

子どもの体力低下が叫ばれています。昭和60年度の6年生(昭和48年生まれ)をピークに、子どもの体力・運動能力の調査結果は低下し続けています。例えば、最も顕著な違いがあるのはソフトボール投げです。昭和60年度の小学6年生の平均値は、男子29.94m、女子17.60m。令和6年度の土岐市の6年生の平均値は、男子19.75m、

女子13.13mでした。体格について比較してみると、今の子どもの方が身長で約2cm、体重で約3kg上回っています。調査項目の記録は、ほぼ体格に比例するのですが、今の子どもは昔に比べ、栄養状態がよくなり体は大きくなったのにも関わらず、動きは低下していると言えます。これは、今の子どもが好んで運動不足になった訳ではなく、私たち大人がそのような生活環境にしてきた結果です。

私たちの子ども時代の生活環境は遊び中心でした。遊びの中で、体力も仲間と折り合うことも、知らないうちに身に付けてきました。現在の社会情勢の中、今の子どもが、昔の子どもの体力レベルに戻ることは難しいでしょう。健康に関する体力は、20歳をピークに緩やかに低下していきませんが、子どもの頃や学生時代に運動を通して培った体力は、健康寿命に影響することはもちろん、困難な時こそ、向上心をもって立ち向かう力の源になると私は思います。

激暑と呼ばれる暑さの中ですが、子どもにとって、一日一回は汗だくになって遊んだり、運動したりする時間は、健康な生活を送る上で大切です。2.5m泳げるまで何度でも挑戦したり、逆上がりや二重跳びができるまで頑張ったりすること。運動をきっかけに、生きていく上で必要な粘り強さを多くの子どもたちに身に付けてほしいと願っています。



# 未来を生きる子ども達に 今つきたい力とは

～幼児教育について考える～

土岐市幼稚園・こども園長会 会長 伊藤 策雄

## はじめに

社会が大きく変化し、貧困や自然災害など地球上で様々な問題が起きています。また、AI 化や様々な情報が簡単に手に入る今、未来を生きる子ども達には、どのような力が必要なのでしょう。

困難に出会っても諦めず、他者とよい関係をつくり、共同して乗り越えていく力や自分で判断し、よりよいものを求めて進んで行く力、こうした力を発揮するために必要なのは、思いを伝え合う力だと言われています。子どもたち一人ひとりが、身に付けた力をもとに、困難や悲しみがあっても、それを乗り越えて自分なりの楽しみを見つけ、たくましくしなやかに生きてほしいと思います。

そのためにも幼児期から人を信頼する心や自分を信じる心、根気強く物事に向き合う力、気持ちを切り替える柔軟性、発想力、思考力、多様な人と認め合って思いを伝え合う力などを育てていかなければなりません。失敗を恐れずチャレンジしたり、互いの思いを出し合ったりする中で、自分に自信をもち、仲間と共に創り出す楽しさを味わうことでレジリエンスが育まれていきます。初めての集団生活を送る幼児期にそうした心や力の基礎を培っていく必要があると考えます。

## 1 安心して自分が出せる基盤づくり

素直に自分自身を出すには、安心できる環境でなければなりません。それは先生との関係や仲間との関係が大きいです。大切にしている点は、次のようなことです。

- ・自分の話を否定せず聞いてもらえる環境
- ・自分の頑張りや行動を認めてもらえる環境
- ・小さな成長を褒めてもらえ、失敗してもそれまでの過程を認めてもらえる環境

子ども達に寄り添い、つぶやきや行動の裏にある思いを受け止め一緒に活動する中で、信頼する感覚や自分のことがいいなと思える感覚をもてるようにしています。

各園では、子ども達が自信や充実感、達成感や自己肯定感をもてるような取組を行っています。

土岐津幼稚園では「きらめきタイム」、駄知幼稚園では「ぴっかりこ活動」、泉幼稚園では「3本の木」、泉西幼稚園では「きらきらミックス」です。

例えば駄知幼稚園では、自分の心に負けず挑戦した時には、「ちゃれんじぴっかりこだね」、工夫ができた時には「ひらめきぴっかりこだね」と、タイムリーに認めると共にカードに言葉を書き込み、帰りの会などで手渡すようにしています。先生だけでなく子ども同士で、時には保護者にも協力していただき見つけたぴっかりこな姿を認め合っています。また、月ごとに視点をもち、全職員で大切にしたい姿を意識して取り組んでいます。

## 2 主体的な取組となるための環境構成や支援

幼児期の子ども達は本来能動的に遊びます。安心して受け入れてもらえる環境であれば子ども達は、遊びの中で主体的に活動し、力をつけていくと考えます。では、どのような点を大切に環境構成や支援をしていけばよいのでしょうか。

- ・やりたいことができる（自己選択・自己決定）  
環境と時間の保障
- ・思いや考えを伝え合う場や体験の位置づけ
- ・小さな成功を喜び合う体験の積み重ね
- ・失敗から学ぶ（結果重視や効率よく正解を求めることではなく、子どもと共に、不思議さや面白さを味わい一緒になって考え追究していく）
- ・創造的に考え、自分なりに試したり、確かめたりできる場や時間の保障

## 3 終わりにあたり

学校や幼稚園の生活で、子ども達は突然できるようになったり、輝きを放ったりする瞬間があります。そうした瞬間を共に味わうことができることが私達の喜びです。子ども達が「やってみたい」と思いを馳せ、主体的に取り組む中で、成長や失敗の姿に共感し共に喜び・悩むことで、子ども達は安心して自分が出せるようになり、仲間と思いを伝え合いながらよりよいものを求めていきます。

このような取組の繰り返しの中で未来に必要な力の基礎を培っていると私は考えています。



## 校長先生と校長室

泉中学校長  
河合 広映

自分がまだ初任のころ、校長先生と話をすることはあまりありませんでした。ですから、校長室で校長先生と向かいになって話したという記憶もほとんど残っていません。生徒数が多く、規模が大きな学校への勤務が多かったこともあり、職員会や打ち合わせでもなければ、校長先生の声を聞くこともありませんでした。そんな状況だったため、当時の私にとって、校長先生はちょっと遠い存在でした。それなのに、今、振り返ると、もう何十年も前のことになるのですが、お仕えした校長先生ごとに、印象に残る言葉とその時の風景は思い出せるのです。それも、職員会や打ち合わせで話された言葉ではなく、ごく稀に校長室に入ったときかけられた立ち話程度の言葉です。

これまで多くの校長先生に仕えてきました。初任校では2人、2校目1人、3校目2人、4校目2人、5校目5人、6校目2人、お仕えした校長先生は計14人になります。校長先生とよく話すようになったのは、自分が泉中学校で生徒指導主事の分掌をいただいた頃からでしょうか。毎朝、生徒情報をお伝えしていた校長先生もいます。同席させていただくいくつかの会議の中で校長先生と話す機会も増えてきました。でも、やはり、今、思い返しても、校長先生の言葉で印象に残っているのは、そうした会議の場で話された話ではなく、ふとした機会に話しかけてくれた雑談めいた言葉なのです。校長室という場所も同様です。校長室は初任のころの自分にとっては近寄りがたい場所であり、校長室へ入るのも、会議を行う時や金庫に用事があるときだけで、頻繁に訪れる場所ではありませんでした。ですから、校長先生から校長室に呼ばれるときには、「何かやったっけ？」と不安になったものです。私にとって校長室という場所も、また、遠い存在だったといえます。

「校長室の窓から」という原稿依頼をいただき、改めて校長室という場所を考えました。そして、「校長室の窓から」というタイトルはシンボリックであることはわかっているのですが、校長室の窓から外を見てみました。初任校長として勤務した中学校は、校長室の南側の窓からグラウンドが見えました。ちょうどコロナのピーク時であったため、外で遊ぶ生徒たちの姿は見られませんでした。それでも、体育の時間や部活動の時間などには、生徒たちの姿を校長室から見ることで

ました。カモシカがグラウンドを歩いていて驚いたこともあります。

さて、泉中学校の校長室はというと、窓からはグラウンドを見ることはできません。外を見ると、1・2年生校舎の壁と保健室や校内支援センターが見えます。見上げれば1・2年生の教室です。授業中は先生たちの声や、発言をする生徒の声、笑い声など活気のある声が聞こえてきます。一日を振り返ると、校長室には起案文書を持って来る先生、公印や会計印を依頼しに来る先生、校長室に保管してある生徒関係書類を取りに来る先生、会議を行う先生など毎日10数名程度が来室します。生徒は校長にお願いがあるときに、担当の先生に連れられて緊張した面持ちで入室します。先日、本校の保護者であるかつての教え子が校長室に入って来たとき、「校長室って初めてに入った。」とつぶやいていました。生徒にとっても校長室は、他の教室と違って特別な場所であるようです。先生たちもかつての自分と同様、校長室は気楽に入れる場所ではないようです。

昨年度の校長会で教育長様がこんな話をされました。「なぜ、校長室があるのか。」

- ・校長室は静謐な場
- ・校長室は情報のやり取りをする場
- ・校長室は教職員とゆっくり情報を交わすことのできる場
- ・校長室は対外的な応接室
- ・校長室は「教育者としての校長」を体現する場

今、私の席の眼前にはこれまで泉中学校を築いてきた25人の先輩校長の写真が飾られています。そのうちお仕えした校長先生は7人です。これまでに何度か悩んだ時に写真を見上げ、あの校長先生だったらどうするだろうか？と考えたことがあります。「先人に知恵を借りる」そんな効果も歴代校長の写真にはあるようです。

茶色くなった古い「泉中教育」や30年誌・50年誌を紐解きながら、「泉中が泉中らしくあるために」かつての校長先生たちが願った泉中に対する思いを受け、あの校長先生はこの場所で何を考えていたのだろうか、そして、先生たちにどんな言葉をかけていたのだろうか、こんな時、あの校長先生ならどうしたのだろうか、節目の式で生徒たちにどんな話をしていたのだろうか、これからも先輩方の写真に問いかけ、また、お知恵を拝借します。

# 令和7年度 学力向上推進委員会 活動方針と計画

## 1 目的

教育委員会の諮問に応じて、学力向上に向けた事項を調査・審議する。

## 2 活動方針

- (1) 学力向上に向けた授業改善を中心にして、各校の取組を審議する。
- (2) 調査・審議された事項を整理し、教育委員会に報告するとともに、校長会等に報告、進言する。

## 3 構成員

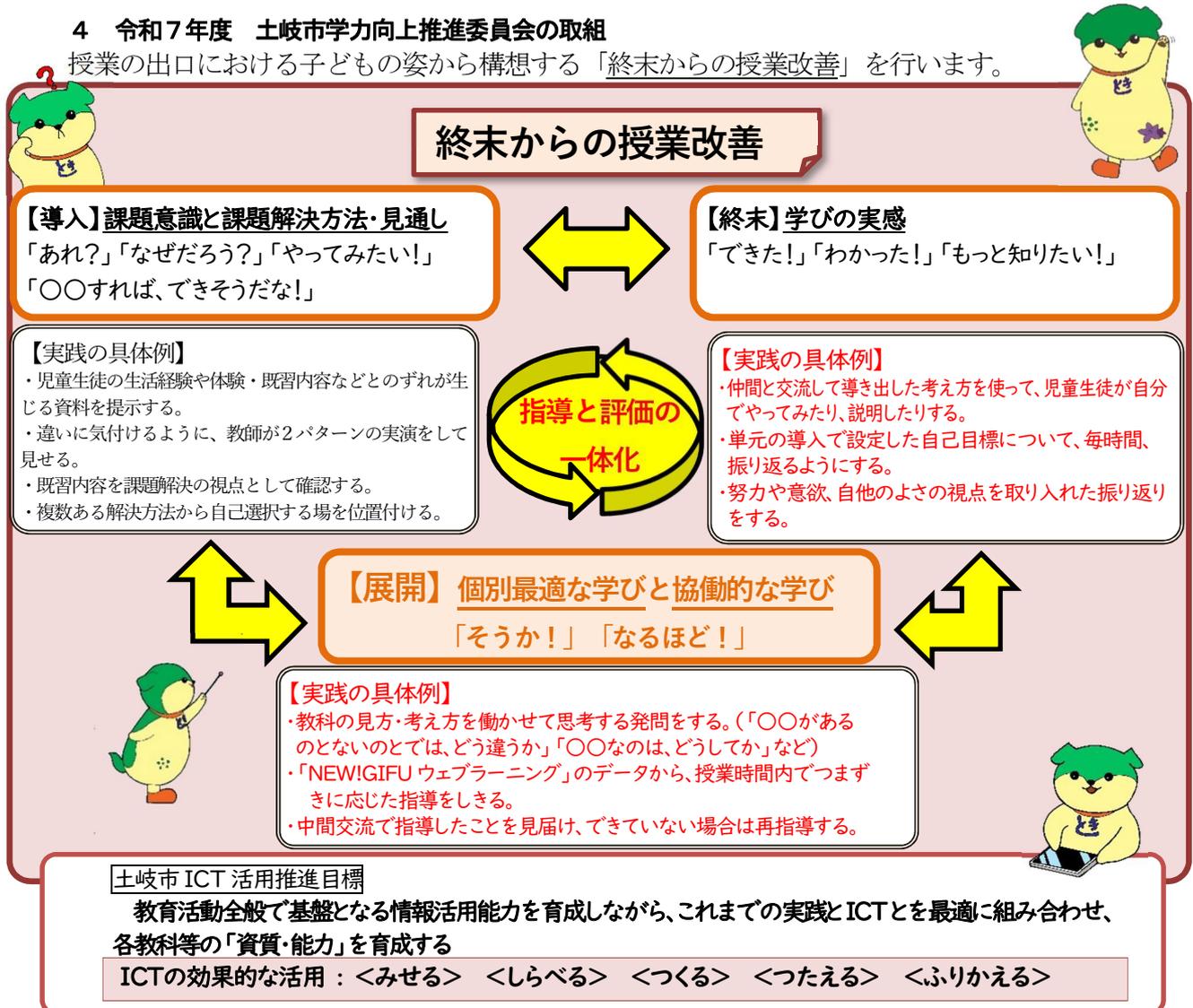
【顧問校長】 肥田中 土本 高夫

【学力向上推進委員】

土岐津小	道下 容子	下石小	田口 俊介	妻木小	小栗 博之
濃南小中	梅村 はづき	駄知小	前田 友輔	肥田小	金森 友里江
泉 小	加藤 拓真	泉西小	道下 直矢		
土岐津中	水野 剛	西陵中	春田 剛史	駄知中	福富 泰地
肥田中	柴田 愛子	泉 中	江崎 紀子		

## 4 令和7年度 土岐市学力向上推進委員会の取組

授業の出口における子どもの姿から構想する「終末からの授業改善」を行います。



## 読書活動の推進について



読書活動は、児童生徒の心の成長にも大きく寄与するだけでなく、学習を充実させることから、各学校の図書主任と学校司書支援員を中心に、積極的に取組が進められ広がっています。令和6年度には、土岐市内で4つの小学校が東濃地区学校図書館教育賞で受賞されました。

総合優秀賞	土岐市立下石小学校
優秀賞	土岐市立妻木小学校
奨励賞	土岐市立駄知小学校
奨励賞	土岐市立西陵中学校

どの学校も「管理運営」「資料整備」「読書指導」「利用指導」の4つの観点で具体的な取組を行い、児童生徒が読書に親しむことができるように環境が整えられていました。その中から、下石小学校が取り組んだ事例をもとに、今後の読書活動推進について考えていただきたいと思います。

### 【管理運営】

教師と学校司書支援員が連携を図り、学校図書館の運営を効率的かつ魅力的なものにする取組が行われていました。

担任や養護教諭のリクエストに応え、特別なコーナーを設置したり、各学年の授業時期に合わせて、それに関わる資料を子どもたちの見やすい場所に展示したりすることで、調べ学習がスムーズに行えるように工夫されていました。



このような役割分担と協働は、学校図書館運営のモデルとして他校にも参考になる点といえます。

### 【資料整備】

土岐市図書館では学校での学習活動のために、学校への本の貸し出しを行っています。学校の図書館で不足している調べ学習に必要な本や教科書で紹介されている本、教師が児童生徒に読ませたい本など、土岐市立図書館と連携することで必要な図書資源を確保することができます。児童生徒が多様な本に触れることで、知識を深める機会や読書の楽しさを知る機会が増えます。また、教師

が選んだ本を通じて、授業内容に関連付けた学びや読書の習慣を育むことができます。土岐市立図書館との連携により、学校では普段手にできない幅広いジャンルの本や最新の情報を提供し、読書環境を充実させることが可能となります。ぜひ、土岐市図書館の資源を活用し、学校内での読書活動を一層活性化してください。



各学年フロアに設置された土岐市立図書館の本

### 【読書指導】

「家族読書など家庭と連携した取り組み」「委員会による本の紹介」「読書の振り返りカードの活用」「朝読書・読み聞かせ」など、授業だけでなく、日々の教育活動や家庭の時間でも、読書の楽しさや意義を児童生徒と共有する機会を大切にしています。これらの取り組みは、子どもたちが読書の楽しさや意義を実感し、豊かな心を育むきっかけとなります。家庭や学校などが連携しながら、読書指導を行っていくための参考にしてください。

### 【利用指導】

調べ学習等で図書の本を利用して作成した作品を展示するコーナーを作成していました。次学年にどんな学習をするのか興味をもたせたり、全校の仲間に作品を読んでもらうことを目的にした意欲的な学びに繋がったりしました。また、利用指導の年間計画を作成し、新しい取組や工夫できそうな取組を加えていくことで、図書利用の充実を図っていました。読書活動を推進し、児童生徒の興味関心を広げるきっかけに役立ててください。

各校でも創意工夫を凝らした読書活動が展開してみてください。読書の楽しさを通じて、未来を担う子どもたちがより豊かな感性と知識を育むことができるよう、読書推進に励んでくださるようお願いいたします。

# ようこそ 土岐市の学校・園へ

応援  
してるよ！



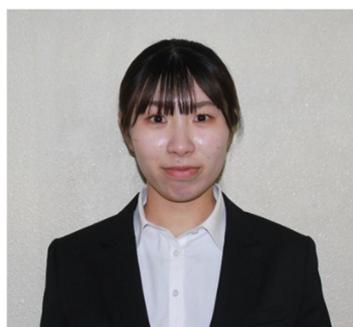
今年度の新規採用者の先生方を紹介します。きっとフレッシュな風を学校に運んでくださっていることでしょう。それぞれの先生が希望をもって子どもたちと向き合う姿をみんなで応援しています！！

## ◆西陵中学校 村瀬 光咲先生

4月から2ヶ月弱、生徒たちとともに学びながら、喜びあふれる毎日を過ごしています。美術という授業の中で、それを学ぶ意義を見すえながら、普段表に出すことのできない「思い」や「自分らしさ」、「こだわり」を引き出し、作品として表現できるような、安心感のある環境づくりに努めています。日々新しいものを取り入れつつ、自身の理想とする教師像に近づけるよう、邁進していきたいです。よろしくお願いします。



## ◆駄知中学校 桑原ななみ先生



4月から駄知中学校に赴任し、素直で元気な子どもたちからパワーをもらいながら楽しく毎日過ごしています。

生徒一人ひとりのよさや頑張っている姿に目を向け、寄り添うことのできる教員を目指します。数学の面白さが実感でき、楽しく参加できる授業づくりを意識して取り組んでいます。周りの先生方や子どもたちからたくさんのことを学び、私自身も成長していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

## ◆濃南中学校 工藤 春佳先生

慣れないことばかりで大変だと感じることも多いですが、子ども達の笑顔に励まされながら頑張っています。授業では、子ども達が主体となった授業をつくることできるように、先輩の先生方の姿から日々学ばせてもらっています。多くの子ども達の「できた！わかった！」の瞬間に立ち会えるように、指導方法を工夫したり、一人ひとりの子ども達に寄り添ったりできる教員になれるよう努めていきます。よろしくお願いします。



## ◆土岐津中学校 梅村 豪先生



土岐津中学校に赴任して3か月が経ち、日々生徒から元気ももらって過ごしています。生徒が学校に行きたいと思えるよう、生徒の成長を共に喜び、さらなる成長につなげていくことを手助けしていきたいです。授業では、生徒の思考に沿って授業を進め、「できた」「わかった」と思えるような授業づくりに努めています。先生方から様々な視点での学びを得られるように精進していきます。

◆泉中学校 高橋 直也先生

4月から泉中学校に赴任し、生徒とともに自分自身も日々成長していこうという思いで過ごしています。

専門の体育の授業では、運動の得意不得意や男女の運動能力の差を踏まえ、全員が意欲的に取り組むことができる授業づくりを心がけています。

授業だけでなく、学級経営や生徒一人一人への対応など、多種多様な仕事に日々勉強の毎日ですが、生徒一人一人に寄り添える教員を目指して邁進していきます。



◆土岐津小学校 紙谷 昌志先生



18年の社会人生活から、かねてからの夢でもあった教員に転身しました。

私自身がまずは楽しみ、子どもたちとの距離を縮めながら信頼関係を構築していくことで、目指す学校像でもある「今日が楽しく、明日が待ち遠しい学校」の実現が図れると感じています。楽しみながら、一歩ずつ歩いていく所存です。どうぞよろしく願いいたします。

◆土岐津小学校 仙石 麻里先生

可愛い可愛い1年生の子どもたちから、たくさんの笑顔とパワーをもらいながら楽しい毎日を過ごしています。子どもたちの良いところを紹介すると、「ぼくも、わたしもがんばろう!」とする姿に喜びを感じます。

毎日の授業の中で、子どもたちが「楽しい!分かった!」と笑顔になれる瞬間がたくさん訪れるよう日々精進していきたいです。



◆泉こども園 西谷 万里絵先生

子ども達の元気な姿や笑顔に癒されて毎日楽しく過ごしています。一人ひとりの子ども達に寄り添いながら日々の成長を近くで感じられるよう、その時の思いに気付き、共感しながら丁寧に関わることを大切にしています。気持ちを受け止めることで信頼関係や安心感が築かれ、いろいろな経験や挑戦を支えられると考えています。

これからも子どもの気持ちに寄り添い共感することを大切にしていきたいと思います。

令和7年度 土岐市初任者研修

研修Ⅰ 7月29日(火)

○教師としての心構えについての研修

○地域における豊かな社会性を育む研修(社会体験研)

研修Ⅱ 12月2日(火)

○地域における豊かな社会性をはぐくむ研修(幼稚園・こども園体験研修)

研修Ⅲ 1月20日(火)

○研修のまとめ

## 「心にひびく言葉」



「できたことを考えられるようになった。

だから一日が前より長く感じるようになりました。」

土岐津中学校 教頭 吉川 卓男

教育支援センターに通っていた生徒の言葉です。支援センターでの卒業式、一人一人が自分の成果や思い出を発表する場がありました。わずかな出席者ではありましたが、この生徒が堂々と発表した姿は今でも思い出すことができます。

この言葉には生徒自身が主体的に「できること」に目を向け、前向きに変化していく力が込められています。また、生徒が自分の可能性に気づき、一日一日を深く味わい、より充実した時間を送ったことも伝わりました。

でも、このタイトルの言葉の前には、実は次のような言葉がありました。本当に響いている言葉は、こちらの方かもしれません。

『『今日もできなかったな』『あれもできなかった』とできなかったことを考えていたけど、ここに来てからは知らない間に『できたことを……』』  
学校での生活をそんな気持ちで過ごしていた

のか…雷が頭の中をはじけたような衝撃でした。

「できた・わかったの授業」「やりきった活動」にしていくことを目指し、取り組み、関わってきた生徒たち。その生徒たちの中には、やはり「できなかった」「わからなかった」「やりきれなかった」生徒もいました。でも、そういう生徒にどれだけ気づき、思いを寄せてきたのだろうか？むしろ目を背け、できた生徒にばかり目を向けてきたのでは？と反省します。そして、日々の授業や交流の中で、生徒の小さな変化に気づくアンテナを持つこと、生徒の微細な心の動きを見逃さないこと、生徒が困難な状況に陥った際、肯定的な視点を提供することの大切を改めて痛感しました。

発表原稿は手元にあり、機会あるたび読み返し、自分に気づきを与えてくれる言葉となっています。

## 掲 示 板

### 令和7年度 岐阜県青少年美術展

<最優秀賞> 高橋 実乃梨 (土岐津小学校 1年)

<優秀賞> 瀬瀬 芽七羽 (下石小学校 2年)

田村 佳楓 (泉西小学校 3年)

木股 菜緒 (泉小学校 6年)

<入 選> 今井 以吹 (駄知小学校 2年) 小島 夕弥 (下石小学校 3年)

中舎 煌太 (駄知小学校 3年) 大山 蓮 (駄知小学校 3年)

石井 姫 (泉西小学校 3年) 足立 濤音 (駄知小学校 4年)

佐藤 利三 (濃南小学校 5年) 田中 愛純 (濃南小学校 5年)

田中 咲希 (濃南小学校 5年) 西 柚葉 (駄知小学校 5年)

毛利 紅梨 (駄知小学校 5年) 水野 理多 (泉西小学校 5年)

赤嶺 アイシェアンベル (泉中学校 2年)

小栗 光叶 (泉中学校 2年)

<準入選>については、作品返却時に応募一覧表で確認してください。

おめでとう  
ございます

